



Adam Reineck 氏
IDEO.org デザインディレクター・共同責任者

いま、ここから世界の変革が始まる：

協働社会に向けた ソーシャルイノベータ の挑戦

同時通訳付き

世界は、今、高度な市場経済から高度な協働社会へと転換する途上にあると言われています。また、それこそが、資源の争奪戦に起因する国際的な緊張を和らげ、持続可能な世界に向かう、唯一の道であるように思われます。このシンポジウムでは、事業創生を先導する企業（野村総合研究所）、グローバルなデザイン企業が生み出した非営利組織（IDEO.org）地域で活動する非営利組織（場とつながりラボ）から講師を迎え、世界各地で奮闘するソーシャルイノベータの活動を学び、はるかな協働社会を展望します。



石田 亨 氏
オーガナイザー

13:00 ▶ 13:10 Opening Talk

石田 亨 氏（京都大学大学院情報学研究科 教授）

13:10 ▶ 13:50 基調講演「The Intersection of Design and the Social Sector」

Adam Reineck 氏（IDEO.org デザインディレクター・共同責任者）

IDEO.org は、2011 年、世界的なデザイン・イノベーション会社である IDEO より誕生しました。今回は、ソーシャルセクターとデザインの橋渡しについて、具体的な成功事例についてご講演頂きます。

14:00 ▶ 15:30 パネルディスカッション Short Talk

「日本の革新者たち—100 人の未来創造パターンと地方創生への挑戦—」

齊藤 義明 氏（野村総合研究所 NRI 未来創発センター2030 年研究室室長）

NRI で取り組まれた「100 人の革新者プロジェクト」と、その成果を活用した地方創生のためのイノベーション・プログラム開発と実践についてご紹介頂きます。

「変革の息吹～よそ者、若者、弱者から」

嘉村 兼修 氏（特定非営利活動法人 場とつながりラボ home's vi 代表理事）

ファシリテーターとしての 10 年の経験を踏まえ、ソーシャルイノベーションのポイントである「よそ者、若者、弱者」の視点から事例とともにお話し頂きます。

Discussion



齊藤 義明 氏



嘉村 兼修 氏



お申し込みはこちらから

日時：2016 年 8 月 2 日（火）（13:00 ▶ 15:30） 会場：京都リサーチパーク 4 号館地下 1 階 バズホール

定員：150 名 参加費：無料（事前申込要） 申込締切：7 月 25 日（日）（定員に達し次第締切）

主催：デザインイノベーションコンソーシアム／京都リサーチパーク株式会社 協力：京都大学 デザイン学大学院連携プログラム 詳細：<http://www.krp.co.jp/krpweek/>
TEL：075-315-8522 E-mail：san-gaku@krp.co.jp 問い合わせ先：京都リサーチパーク株式会社（産学公連携部 山口、柳本）

石田 亨氏

京都大学大学院情報学研究所 教授
京都大学デザインスクール プログラムコーディネータ



1978年京都大学大学院情報工学専攻修士課程修了。

同年日本電信電話公社電気通信研究所入所。1993年京都大学工学部教授を経て現職。

同研究科社会情報学専攻や京都大学デザインスクールなど、分野横断型の教育組織の創設に貢献。この間、ミュンヘン工科大学、パリ第六大学、メリーランド大学、上海交通大学、清華大学客員教授などを経験。電子情報通信学会副会長、情報処理学会、IEEE各フェロー。日本学術会議会員。マルチエージェントシステムのトップカンファレンス AAMAS の第一回大会委員長、セマンティック Web のトップジャーナル Web Semantics の初代編集長などを務める。デジタルシティ、言語グリッド、異文化コラボレーションなど情報技術と社会をつなぐ研究プロジェクトを推進。



Adam Reineck 氏

IDEO.org, Design Director and Co-Lead

IDEO.org のデザインディレクター・共同責任者として、これまでに培ったデザイン力でプロジェクトやイニシアチブを主導。プロダクトデザイン、サービスデザイン、ブランド戦略の分野で幅広い経験を持ち、エネルギー、水、衛生、医療、および金融機会等の課題において社会的企業や財団と提携。IDEO.org 入社前に IDEO の主任デザイナーとして8年間勤務し、米国エネルギー省、NIKE、サムスン、LG、HP、ノースフェイスを含むクライアントの多岐にわたる国際的なプロジェクトを担当。IDEO.org 初年度である2011年はフェローとして勤務。2012年、イノベーションとクラフトの橋渡しするデザインスタジオ「New Factory」を設立。メディア紹介：Fast Company, BBC, Wired, Cell Magazine, the New York Times 等。デザイン賞受賞：IDEA, ID Magazine, Red Dot, iF, 他多数。インダストリアルデザインをカリフォルニア芸術大学 (California College of the Arts Industrial Design) で学ぶ。

「ソーシャルセクターとデザインのインターセクション」

IDEO.org は、デザインを通じて世界の貧困層や弱者の生活を向上させることを使命に、2011年、世界的なデザイン・イノベーション会社である IDEO より誕生しました。今回は、ソーシャルセクター（社会的課題の解決を目的とした持続可能な事業・組織）とデザインの橋渡しについて、私たちが過去数年で学んだことを共有したいと思います。また、ミャンマーの小規模農家に新センサー技術を用いたことや、コンゴ民主共和国の少女たちが、さらされているリスクを理解しパスコントロールを行えるよう支援をしたことなどを通して IDEO.org の活動をご紹介します。さらに、私たちが創造するソリューションに加え、パートナーとより良い協力関係を築き世界での社会的インパクトを高めるために、どのように私たちチームが働き方を変えてきたのかについても触れたいと思います。



齊藤 義明氏

株式会社野村総合研究所
NRI 未来創発センター2030年研究室室長

1988年野村総合研究所入社。NRI アメリカ ワシントン支店長、コンサルティング事業本部戦略企画部長などを経て、現職。政策立案や企業経営コンサルティングの現場でこれまで100本以上のプロジェクトに関わる他、独自の取材により400人以上の経営トップとの対話蓄積がある。専門領域は、ビジョン、事業戦略、ワーク・モチベーション、イノベーション支援など。著書に「次世代経営者育成法」（日本経済新聞出版社）、「モチベーション企業の研究」（東洋経済新報社）、「コーポレート・アントレプレナーシップ」（NRI アメリカ&バブソン大学）、「日本の革新者たち」（BNN 新社）などがある。米国アイゼンハワー・フェロー、大学の非常勤客員教授も務めている。現在は、NRI2030年研究室において「100人の革新者プロジェクト」を推進中、地域イノベーションに挑戦している。

「日本の革新者たち—100人の未来創造パターンと地方創生への挑戦—」

野村総合研究所未来創発センター2030年研究室では、約3年間かけ「100人の革新者プロジェクト」に取り組んできました。「革新者」とは、社会の様々な領域で、従来のビジネスモデルとは異なる切り口から日本の社会課題を解決し付加価値を創造する創造的経営者の方々を指します。本プロジェクトでは、大所高所から未来論を語るのではなく、現場の実モデル、生身の革新者との対話を通じて、帰納法的に未来の事業創造パターンを探索してきました。その結果、革新者に特有のイノベーションの5つのキラースキルを抽出しています。また蓄積した100人の革新者と共に、地方創生のためのイノベーション・プログラムの開発と実践にも取り組んでいます。その概要をご報告いたします。



嘉村 賢州氏

特定非営利活動法人 場とつながりラボ home's vi 代表理事

小集団から大規模組織にいたるまで人が集うときに生まれる対立・しがらみを化学反応に変えるための知恵を研究・実践している。研究領域は紛争解決の技術、心理学、脳科学、先住民の教えなど多岐で日本内外とわず研究を続けている。実践現場はまちづくりや教育といった非営利分野から組織開発やイノベーション支援などの営利組織の支援など分野を問わず展開し、年に100以上のワークショップを行っている。自分の幸せと社会の幸せの両立を大事にしており、現在1年間、自分の人生を見つめ、世界の今を感じるサバティカル休暇を満喫中。休暇終了後は「世界を未来に導く新しい日本型組織論」を発明しようと企んでいる。京大農学部卒。京都市未来まちづくり100人委員会元運営事務局長。

「変革の息吹～よそ者、若者、弱き者から」

私はファシリテーターとして10年間、年間100本ぐらいのペースでワークショップを行ってきました。あえて規模・対象・内容は絞らず、地域のまちづくりからNPOや中小企業の合宿のファシリテーション、上場企業の組織変革まで支援させていただく中で様々なことが見えてきました。日本においては地域の文脈では「よそ者、若者、馬鹿者が大事」、ソーシャルセクターでは「変革は弱いところ、小さいところ、遠いところから」とよく言われており、まさにこのことを体で学ぶ10年間だったといえるかもしれません。今回はこの10年の中で見えてきたソーシャルイノベーションのポイントを特に「よそ者、若者、弱き者」の視点から事例とともにお話しさせていただこうと考えています。